

## 日本呼吸器学会 学術部会活動計画書

報告日	2015年 8月 18日	報告者	小倉 高志
部会名	びまん性肺疾患学術部会		
部会長名	小倉 高志	副部会長	
部会内 役職者名	吾妻安良太 石井晴之 一門和哉 稲瀬直彦 井上義一 海老名雅仁 桑野和善 須田隆文 高田俊範 高橋弘毅 田口善夫 谷口博之 富井啓介 富岡洋海 長谷川好規 本間栄 服部登 濱田直樹 半田知宏 坂東政司 西岡安彦 渡辺憲太郎 山口哲生 横山彰仁 貫和敏博 中田光 迎寛 上甲剛 福岡順也		
コホート 研究・ MDD啓蒙 推進ワー クグルー プ	近藤康博 岸一馬 酒井文和 宮崎泰成 小林哲 有田真知子 新井徹 石本裕士 石松祐二 大河内真也 橋本直純 泉 信有 杉野圭史 宮本篤 馬場智尚 河村哲治 大久保仁嗣 藤澤朋幸 安井正英 白木晶 土屋裕 片岡健介 寺崎泰弘 早稲田優子 北村英也 富永正樹 岡元昌樹 岩澤多恵 江頭玲子 武村民子 田畑和宏 田中伴典 藤本公則 澄川裕充 三浦由記子 山本洋 津島健司 林龍二 喜舎場朝雄 坂本晋 中村祐太郎 佐々木信一 石井寛 生島壮一郎 山田 嘉仁 大河内康実 谷野功典 榎本達治 四十坊典晴 阿部 信二 橋本 潔 神尾孝一郎 皿谷健 仲川宏昭 大石景士 千葉弘文 西山理 松島秀和 今野哲 木谷匡志 石川暢久 小山田 吉孝		

### 【学術部会のミッション】

- ① びまん性肺疾患（DLD）の我が国における実態調査を推進し、稀少難病的確な診断と、適正な治療介入のために、さまざまな角度から多施設コホート研究を行う。  
厚生労働科学研究びまん性肺疾患に関する調査研究班との連携を図る。
- ② びまん性肺疾患の診断、治療は呼吸器科医にとっても難しく、経験を有する領域であるが、若手医師を含めて学会として教育啓発活動を図る
- ③ 患者さんが、診断と治療の最新の知識が得られるように、学会として教育啓発活動を図る

### 【活動予定】

1：びまん性間質性肺炎の外科的肺生検例のデータベース構築のための前向き登録（検討委員会設置）
2：慢性線維性間質性肺炎（特発性肺線維症、特発性NSIP、膠原病関連間質性肺炎など）に関する前向き登録（検討委員会設置）
3：びまん性肺疾患のMDD診断会の普及活動
4：間質性肺炎合併肺癌の内科治療に関する手引きを策定（腫瘍部会、厚労びまん班と共同）
5：2011版と2015年版のATS/ERS/JRS/ALATガイドラインの翻訳事業

### 【内容】

具体的な活動内容	活動成果の報告 予定日	活動内容に伴う 予算
1：びまん性間質性肺炎の外科的肺生検例のデータベース構築のための前向き登録	2017年4月 JRS総会	Web開設費用、 会議費等

<p>特発性間質性肺炎群のみならず、膠原病肺、慢性過敏性肺炎の外科的生検例でかつ、時系列臨床、画像を含んだデータベースを構築する（検討委員会設置 IRBを通し同意書を取って前向きコホート調査を行う）。</p> <p>そのデータベースで、1. 新たに作成するIPF/UIPの診断基準（特に非生検例）の検証、2. MDDの意義及び、3. IPF/UIPと二次性UIPの鑑別、4. 各種間質性肺炎の時間経過による病態変化を行う。5. 組織バンキングをして、基礎研究を公募する。</p>		1000万円
<p><b>2 : 慢性線維性間質性肺炎（特発性肺線維症、特発性NSIP、膠原病関連間質性肺炎）に関する前向き登録（検討委員会設置IRBを通し同意書を取って前向きコホート調査を行う）。</b></p> <p>以下のような研究を公募して検討する</p> <p>① 特発性肺線維症における抗線維化薬の急性増悪予防/減弱効果等に関する研究</p> <p>② 特発性肺線維症における抗線維化薬の肺癌予防効果に関する研究 （喫煙歴、性別、肺機能、肺気腫の有無などの臨床所見と肺癌発症のリスクについても検討し、抗線維化薬が肺癌発生の独立因子であるかどうかについて解析する。）</p>	2017年4月 JRS総会、論文化	Web開設費用、会議費等 1000万円以上
<p><b>3 びまん性肺疾患のMDD診断会の普及活動：</b></p> <p>特発性間質性肺炎の診断においてはガイドラインでもMDD（multi-disciplinary discussion：臨床医、画像医、病理医による多職種での議論）が必要と記載されている。ただ実際には、間質性肺炎に精通する臨床医、画像医と病理医が一同に会して検討会をする事はどこの施設でも困難であり、前述のガイドラインにおいても地区における中核的な施設での検討を勧めています。しかしながら、日本においてもその普及は低いと思います。びまん部会の中堅の先生を中心に、学会が主催のMDD 検討会を各支部会で企画できるようにしたい</p>	2016年4月 JRS総会で、MDD診断会を企画して、そこで各支部の活動を報告	地方会や各支部会の施設を利用すれば、会場費などはあまりかからない。ただ、専門の病理医や放射線科医には学会のきまりの謝金が必要か。全支部だと年間50万円
<p><b>4：間質性肺炎合併肺癌の内科治療に関する手引きを策定（腫瘍部会、厚労びまん班と共同）</b></p> <p>IP合併肺癌についてのコンセンサス・ステートメントをだす</p>	2016年4月 総会	会議費等 50万円
<p><b>5：2011版と2015年版の特発性肺線維症のATS/ERS/JRS/ALATガイドラインの翻訳事業</b></p> <p>2剤の抗線維化薬が使用可能になり、特発性肺線維症の治療については注目されている。JRSとして特発性肺線維症のATS/ERS/JRS/ALATガイドラインの普及のための方策として、きちんと和訳して会員に周知する事</p>	2016年4月	翻訳、出版 70万円

【学術部会の活動】

DLD部会の先生方に、学術部会の活動に積極的に関与していただきたく、その一環として、各研究課題に参加していただくための、組織作りを具体的に検討する。